

令和5年度災害時に備えた地域におけるエネルギー供給拠点の整備事業

(緊急時石油製品供給安定化対策事業に係るもの)

災害時対応実地訓練の振り返り

共通テキスト

主催：全国石油商業組合連合会

目次

地震初動対応

身の安全確保	1
二次災害防止	2
給油再開に向けた対応	12
給油再開後の留意点	15
平時の準備	16

地震初動対応：身の安全確保

実地訓練の振り返りとして大規模な地震（揺れ）により、停電した場合のSSにおける初動対応を中心に解説する

緊急停止、身の安全確保

緊急地震速報を聞いたら（大きな揺れの前）

- ・ 作業の中止 ※給油、洗車、整備、荷卸しなど、すべての作業
（セルフSS）コンソールまたは建物外部の緊急停止スイッチを押す
- ・ 声掛け、誘導
（セルフSS）給油を停止し、ノズルを戻すよう指示

『地震！地震！』

『ノズルを戻して給油口のキャップを閉めて！』

『体を低く！頭を守って！』

『揺れが収まるまで車外に出ないで！』

大きな揺れが襲ってきたら

- ・ 作業の中止
 - ・ 頭を守る
 - ・ 声掛け、誘導
- 危険性が高い場所
- ・ キャンピー、照明、サインポール付近（落下）
 - ・ 防火塀付近（倒壊）
 - ・ 計量機付近（転倒）
 - ・ ガラス付近（飛散）
 - ・ 車両、洗車機付近（移動）など

安否確認、救出・救護、情報収集、待機・避難、開口部遮断等

- ・ 安否確認（施設内の従業員・お客様）、救出救護（安全な場所への移動、応急手当、119番通報、出入口の確保）
- ・ 情報収集（通信手段の確保、災害情報、警報、避難情報等）、待機または施設外避難（判断・実行）
- ・ 開口部の遮断（一時閉店措置）

地震初動対応：二次災害防止＜分電盤遮断・施設点検＞

分電盤遮断

- ・（停電時）100V/200V分電盤の遮断（主幹/個別ブレーカをすべて「OFF」）

危険物取扱いの中止

- ・（荷卸時）ローリー移動防止措置、注入口閉止、ホース格納の確認

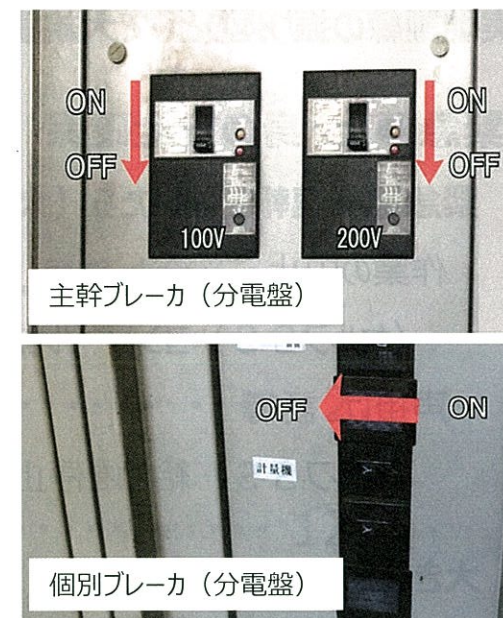
火気確認（初期消火、通報）

- ・ 施設内、近隣の火気確認

施設の応急点検（専門業者の正確な点検を受けるまでの間）

- ・ 車両の移動、輪留めの設置
- ・ 点検用資機材の準備
- ・ 応急点検の実施 ※石油連盟発行のSS施設安全点検記録帳など、所定の点検表を使用

- 危険物保安監督者、危険物取扱者が点検を行う。
- 被害があった場合の臨時的対応（応急措置）の方法や使用資機材については、消防庁「危険物施設の震災等対策ガイドライン」などを参考に所轄消防機関と被害ケース毎に「臨時的対応」等を協議し予防規定を整備しておくことが重要。
- 臨時的対応により給油継続できる期間（危険物の仮貯蔵・仮取扱い）については、地震発生直後から専門業者による点検等が可能となるまでの期間（発災後10日間程度を想定）に限り認められる。



写真提供協力 株式会社タツノ

地震初動対応：二次災害防止＜施設の応急点検①＞

施設の応急点検①

危険物保安監督者による点検項目チェックリストの例（1/6）

構造・設備等		確認方法	状況	給油等の可否及び留意事項
地下貯蔵タンク	上部スラブ	●地震前には見られなかった亀裂及び隆起等がないか確認する	●給油等や車両の出入りに支障のある段差等が生じている ●上記以外	× △ 給油可能（可能な範囲で亀裂の補修）
	タンク本体	●ウォーターリボンにより地下貯蔵タンク内の検水を行い、平常時より水量が増加していないか確認する ●在庫状況を確認する	●水の混入がある ●在庫量の減少が確認できる（タンクから流出の疑い）	× △ 流出の有無が確認できるまで原則使用不可 ただし、安全が確認できる範囲の払出し（給油・注油）は可
	漏えい検査管	●漏えい検査管に検知棒を差し込み、流出した油がないか、及び油臭がないか確認する	●検査管の範囲等により確認できない状況	○ 給油可能（在庫量の確認強化）
	注入口	●注入口ピットの破損及び配管の変形等がないか確認する	●注入口の破損	○ 給油可能（荷卸し不可）

※ 給油等の可否欄：○：可能 △：代替手段を用いれば可能 ×：不可

※ 本チェックリストは、地震直後から専門業者による点検前までの間の対応について定める。

（出典）総務省消防庁 危険物施設の震災等対策ガイドライン 給油取扱所編



➤ 給油取扱所周辺に河川、用水路、田んぼ等がある場合は水面に油膜、油分が無いかの確認を行う。

写真提供協力 株式会社タツノ

地震初動対応：二次災害防止＜施設の応急点検②＞

施設の応急点検②

危険物保安監督者による点検項目チェックリストの例（2/6）

構造・設備等	確認方法	状況	給油等の可否及び留意事項
配管	<ul style="list-style-type: none"> ● 固定給油設備等から地下貯蔵タンク底部までの吸引管長さ分の油を固定給油設備等から払い出し、エアを嚙まないか確認する ● 在庫状況を確認する ● 目視できる配管類等から油の流出及びしみ等がないか確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 配管の破断、脱落等 ● エア混入 	△ 当該配管は使用不可 マンホールから手回しポンプ等による当該配管を経由しない給油は可能
		● にじみ	○ 給油可能 (増し締め実施・油吸着マット等を敷く)
マンホール内	<ul style="list-style-type: none"> ● 目視できる配管フランジ等から油の流出及びしみ等がないか確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 配管の破断、脱落等 	△ 当該配管は使用不可 安全が確認できる範囲でマンホールから手回しポンプ等による当該配管を用いない給油等は可
		● にじみ	○ 給油可能 (増し締め実施・マンホール内に油吸着マット等を敷いた上で異常がないことを確認しながら実施)

※ 給油等の可否欄：○：可能 △：代替手段を用いれば可能 ×：不可 ※ 本チェックリストは、地震直後から専門業者による点検前までの間の対応について定める。
(出典) 総務省消防庁 危険物施設の震災等対策ガイドライン 給油取扱所編



➤ 破損、変形等による危険物の流出、にじみ等はないか

写真提供協力 株式会社タツノ

地震初動対応：二次災害防止〈施設の応急点検③〉

電報

施設の応急点検③

危険物保安監督者による点検項目チェックリストの例（3/6）

構造・設備等		確認方法	状況	給油等の可否及び留意事項
通気管		●目視により著しい破損があるか確認する	●消失または折損していてタンクからの通気が確保できていない	○ 給油可能 (荷卸し不可、給油によるタンク内の負圧対策を講ずる)
			●消失または折損しているが、タンクからの通気が確保できている	○ 給油可能 (荷卸し不可) (パイプ等を活用した補修も可能)
			●亀裂	○ 給油可能 (テープ等による補修)
建築物等	販売室等	●柱、屋根、梁等に地震前にはなかった大きなヒビや変形がないか確認する	●建物使用不能	○ 給油可能 (建物への進入禁止)
	キャンピーサインポール等	●キャンピーパネルのはがれ等、パネルの落下危険がないか確認する	●パネル等の落下危険	○ 給油可能 (落下危険範囲内への進入禁止)

※ 給油等の可否欄：○：可能 △：代替手段を用いれば可能 ×：不可 ※ 本チェックリストは、地震直後から専門業者による点検前までの間の対応について定める。

(出典) 総務省消防庁 危険物施設の震災等対策ガイドライン 給油取扱所編



➤ 破損、変形等による危険物の流出、にじみ等はないか。倒壊、落下危険等はないか。

写真提供協力 株式会社タツノ

地震初動対応：二次災害防止＜施設の応急点検④＞

施設の応急点検④

危険物保安監督者による点検項目チェックリストの例（4/6）

構造・設備等		確認方法	状況	給油等の可否及び留意事項
固定給油設備等	外観	●目視により著しい破損があるか確認する	●破損がある	△ 当該給油設備は使用不可 マンホールから手回しポンプ等による当該設備を使用しない給油は可能
	機能	●携行缶等に給油し、給油に必要な機能に支障がないか確認する	●給油機能に異常がある	△ 当該給油設備は使用不可 マンホールから手回しポンプ等による当該設備を使用しない給油は可能
防火塀		●防火塀が亀裂、破損、倒壊していないか確認する	●防火塀の倒壊	○ 給油可能 (離隔の確保、仮設の屏等の応急措置)
			●一部損壊	○ 給油可能 (不燃シート等による補修) (軽微な亀裂なら後日対応で良い)

※ 給油等の可否欄：○：可能 △：代替手段を用いれば可能 ×：不可 ※ 本チェックリストは、地震直後から専門業者による点検前までの間の対応について定める。

(出典) 総務省消防庁 危険物施設の震災等対策ガイドライン 給油取扱所編



計量機内部（固定給油設備）



ポンプ（懸垂式固定給油設備）



防火塀

➤ 計量機内部については、配管結合部付近を触るなど、**油漏れ**がないかを確認する。

写真提供協力 株式会社タツノ

地震初動対応：二次災害防止〈施設の応急点検⑤〉

施設の応急点検⑤

危険物保安監督者による点検項目チェックリストの例（5/6）

構造・設備等		確認方法	状況	給油等の可否及び留意事項
空地等	地盤面	●地震前には見られなかった亀裂・段差・陥没等がないか確認する	●給油や車両の出入りに支障のある段差等が生じている ●上記以外	× ○ 給油可能 (地下タンク、配管に破損がないか注意し、可能な範囲での亀裂の補修)
	油分離装置 排水溝	●地震前には見られなかった亀裂及び破損がないか確認する ●水位高さが十分か確認する	●機能に支障のある亀裂・破損がある	○ 給油可能 (上流側へ油吸着マットの設置、荷卸し時の監視強化)

※ 給油等の可否欄：○：可能 △：代替手段を用いれば可能 ×：不可

※ 本チェックリストは、地震直後から専門業者による点検前までの間の対応について定める。

(出典) 総務省消防庁 危険物施設の震災等対策ガイドライン 給油取扱所編



ドライブウェイ



油水分離層



集水溝

➤ **亀裂、段差、陥没等はないか**

➤ **普段の水量より減っていないか。亀裂、破損等はないか。**

写真提供協力 株式会社タツノ

地震初動対応：二次災害防止〈施設の応急点検⑥〉

施設の応急点検⑥

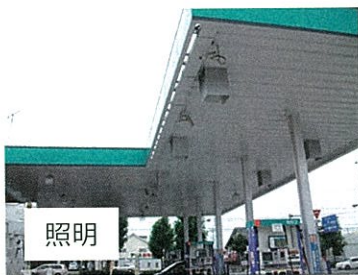
危険物保安監督者による点検項目チェックリストの例（6/6）

構造・設備等		確認方法	状況	給油等の可否及び留意事項	
消火設備	消火器	●適正な本数があるか、破損がないか確認する	●消火器が全くない	×	
			●消火器が一部あるが、適正な本数が確保されていない	△	給油可能 (消火器を保持した従業員1名を常に確保し、消火態勢を取ること、迅速に消火が行える範囲の固定給油設備等まで使用可)
電気設備	POS等	●POSが転倒等していないか確認する	●地盤面上60cm以下に通電した電気設備がない	○	給油可能
	照明	●破損や落下危険がないか確認する	●照明の落下危険がある	○	給油可能 (落下危険範囲内への進入禁止)
			●照明が不点灯	○	給油可能 (危険範囲外に仮設照明の設置または夜間の給油不可)
電力	●商用電源が使用可能か確認する	●停電	○	給油可能 (手回しポンプもしくは非常用電源等を利用した給油)	

※ 給油等の可否欄：○：可能 △：代替手段を用いれば可能 ×：不可

※ 本チェックリストは、地震直後から専門業者による点検前までの間の対応について定める。

(出典) 総務省消防庁 危険物施設の震災等対策ガイドライン 給油取扱所編



➤ **落下危険、転倒等はないか**

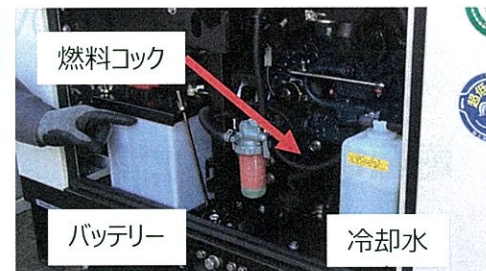
写真提供協力 株式会社タツノ

地震初動対応：二次災害防止＜電源切換＞

SS向け発電機の代表的なものとして中型発電機（8kVA）を使用した場合の手順
実際に使用する際は発電機の取扱説明書を確認しつつ使用すること

発電機の配置および運転前点検

- ・ 発電機の配置（消防機関に届出した位置）
- ・ 周囲点検（可燃物の有無、換気状況）
- ・ 正面パネルを開ける
- ・ 油量の点検（オイルゲージを抜く。少ない場合は補充）
- ・ バッテリー液の確認（少ない場合は補充）
- ・ 冷却水の点検（少ない場合は補充）



試運転

- ・ 燃料コックを「開」
- ・ スロットルスイッチを「アイドリング」
- ・ 始動 スターターキーを「予熱」（約5秒）→ 「始動」 → 回転が安定 → 「運転」
- ・ 燃料残量の確認



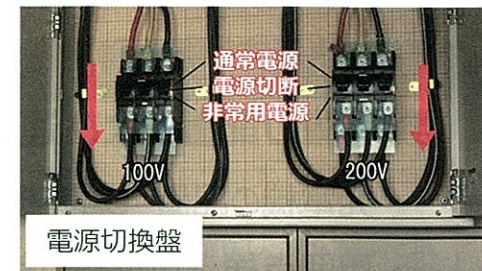
➤ 発電機の燃料補給は**金属容器（専用缶）**を使用し、**エンジンを停止した状態**で行う

写真提供協力 株式会社タツノ

地震初動対応：二次災害防止＜電源切換 つづき＞

発電機の接続・始動 ※分電盤を遮断した状態で実施する

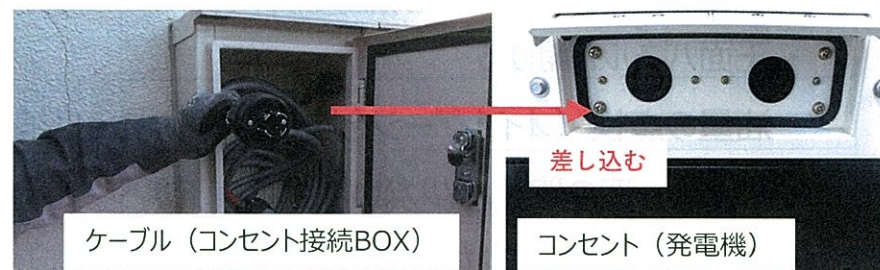
- ・ 電源切換盤 開閉器（100V/200V）を「通常電源」→「非常用電源」
- ・ コンセント接続BOX コンセントケーブルを発電機側のコンセントに差し込む
- ・ 発電機 始動（スターターキーを「予熱」（約5秒）→「始動」→ 回転が安定→「運転」）
ブレーカ（100V/200V）を「ON」



電源切換盤

電源切換（分電盤操作、POS起動）

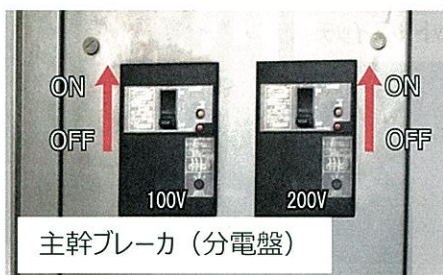
- ・ 分電盤 主幹ブレーカ（100V/200V）を「ON」
個別ブレーカ（100V/200V）を「ON」



ケーブル（コンセント接続BOX）

差し込む

コンセント（発電機）



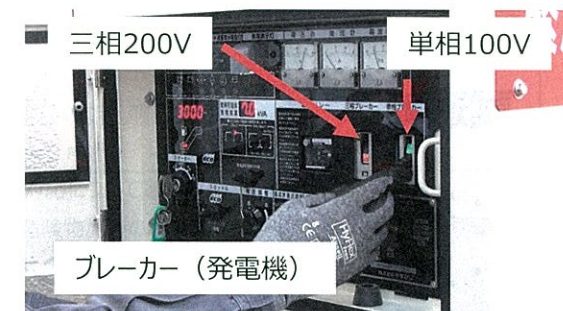
主幹ブレーカ（分電盤）



個別ブレーカ（分電盤）

※SS（電気工事）によっては、
主幹ブレーカ（100V/200V）
は「OFF」のまま

※発電機で使用する機器のみ「ON」



ブレーカー（発電機）

- ・ POS 起動 ※発電機でPOSが使用できる場合

写真提供協力 株式会社タツノ

地震初動対応：二次災害防止＜計量機、在庫等の確認＞

計量機、配管の確認

- ・ モニター点灯の確認
- ・ 計量機モーター音の確認 ※POSの油種セットなど必要な措置を講じ、ノズルを上げて異音がないか

油出し検査 ※検水棒による検水や装置による水検知が出来ない場合に実施

- ・ 近くに消火器を配置し、水を撒き、金属容器（専用缶）を置く
- ・ 容器に油を払い出し、白濁が無いか確認。

在庫量把握

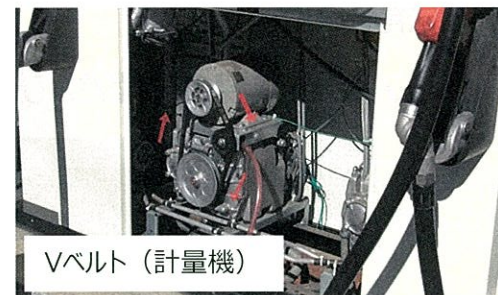
発電機で電磁式油面計（POS連動している場合はPOS含む）が

- ・ （使用できる場合 ※1） 電磁式油面計
- ・ （使用できない場合 ※2） 直読式油面計 ➡ 検尺棒 ➡ 推計 ※3

※1 POS用無停電電源装置（UPS）の一般的なバッテリーは5分程度だけ作動し、寿命は3～5年程度のため、定期的な交換が必要

※2 油面計とPOSが連動していない場合や無停電電源装置（UPS）のバッテリー切れ等でPOSが機能しない場合も同様

※3 前日終了時点の在庫量と当日停電時までの給油量の差し引きで推計



➤ 給油中に異常音、油の出方が一定で無い場合、当該計量機の使用を中止する（配管の異常が想定される）

写真提供協力 株式会社タツノ

地震初動対応：給油再開に向けた対応＜情報収集＞

情報収集

- 給油業務の再開および継続に必要な情報を収集する

経営資源の例

種類	内容	
人材	従業員	安否／出勤可否
設備	事務所、販売室	損傷有無／入室可否
	設備、車両（SS主要設備、発電機、配送用車両 など）	使用可否
	電気、ガス、上下水道、固定／インターネット回線	使用可否
	在庫（石油製品、その他商材 など）	払い出し可能な量
	備蓄品（食料品、生活用品、救護、情報収集、応急点検、応急措置）	使用可否
資金	預貯金関係（通帳、実印、クレジットカード、保険証券 など）	
	現金、有価証券（手形、小切手 など）	
情報	避難関連（避難情報 避難所開設 など） 交通関連（SS周辺、石油製品輸送ルート など）	
	計画類（BCP、初動対応計画 など） 契約書類（賃貸、売買、運送、ローン、借地、リース など）	
	その他（領収書、免許証、権利証 など）	

- **自然災害の影響を想定し、給油業務の再開または継続に観点で守るべき経営資源を普段から決めておく**

地震初動対応：給油再開に向けた対応〈給油方針等の検討〉

給油方針の決定

- ・危険物保安監督者の在籍を前提とし、スタッフ数、発電機で使用できる機器類によって、判断する。

在庫量（油種別）			給油方針					
実在庫	払出不可	払出可能	給油量／台			給油可能数	営業時間	
KL	KL	KL	現金	円	掛売	L	台（缶）	

- 送油管のキャビテーション防止の観点で最低限地下タンクに貯蔵しておくべき在庫量を平時に専門業者に確認しておく

施設内動線の決定、スタッフ配置の検討

- ・（車両行列発生が見込まれる場合）右折進入禁止、出入口各一カ所を基本とし検討。使用しない開口部や給油レーンは遮断。

優先給油対象車両の識別（中核SSの場合）

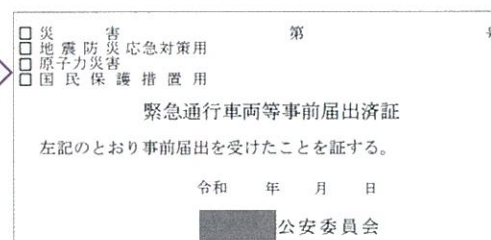
- ・緊急自動車 … 外観（赤色灯・サイレン付）
- ・緊急通行車両 … 確認標章、事前届出済証（県により封筒の場合あり）、エネ庁の証明書をフロントガラスから見えるように掲示している車両
- ・自衛隊車両 … 外観（6桁ナンバー）



緊急通行車両確認標章（見本）

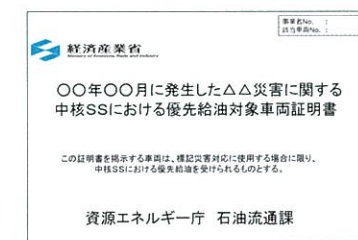


緊急通行車両等事前届出書（見本）



（出典）警視庁ホームページ、資源エネルギー庁 災害対応ガイドライン（中核SS・住民拠点SS）

資源エネルギー庁石油流通課が発行する
優先給油対象車両証明書（見本）



地震初動対応：給油再開に向けた対応＜情報共有＞

社内報告

- ・ 安否確認、施設の応急点検、給油方針の検討等の対応結果を社内の責任者へ報告する。必要に応じて応援要請を行う。

資源エネルギー庁、石油組合への報告（第1段階）：災害時情報収集システムを使った自主報告の実施

- ・ 中核SS、住民拠点SS、小口燃料配送拠点等の報告責任者はエネ庁の災害時情報収集システムから自動送付される「状況確認メール」を開き、記載されたURLにアクセスして報告を行う。

災害対応ガイドラインに基づく自主（初期）報告の実施

- **いつ** … **中核SS等が立地する都道府県で震度5強以上の地震が発生**
中核SS等が立地する都道府県内で大津波警報が発令
噴火、台風、洪水、豪雪、停電等のその他災害が発生
- **なにを** … 営業可否、在庫状況
- **いつまでに** … 地震発生／大津波警報発令から概ね**2時間以内**
- **どんな手段で** … スマートフォン、携帯電話、PC等（**災害時情報収集システム**）

- **報告された情報は、政府および自治体の災害対策本部等に共有され、災害復旧活動に利用される重要な情報となるため、概ね2時間以内の報告をお願いします**

平時の備え

1. 緊急連絡先の登録
災害時情報収集システムへの連絡先の登録（登録方法は次頁参照）
アクセス先 <https://www.e-kakushin.com/login/>
企業コード：bosaiss
ユーザーID：給油所の代表固定電話番号（一部IP電話、一は入れない）
中核給油所と小口燃料配送拠点を同一事業所（同一電話番号）で運営されている場合には、小口燃料配送拠点のユーザーIDには、先頭に「9」を付加してから、代表電話番号を入力。
初期パスワード：bosaiss
(パスワードの変更を行ってください。)
QRコード：

▼QRコードをご利用の場合はこちら

※ 連絡先登録は可能な限り、経営者、マネージャー等SSの責任者の携帯電話、スマートフォンのメールアドレスを登録してください。
※ 人事異動等があった場合は必ず更新してください。
※ パスワードを忘れた場合等は初期化しますので、所属団体等を経由して石油流通課までご連絡ください。

2. 災害訓練の実施
 - ・ 各種（県石、自治体等主催）防災・災害訓練への参加
 - ・ 年2回以上の自家発電機の稼働訓練
 - ・ 災害時情報収集システムによる報告訓練（石油流通課が指定した日）
 - ・ 年1回以上の非常用電源への切替え手順の確認等

（出典） 資源エネルギー庁 災害対応ガイドライン（中核・小口、住民拠点SS）

給油再開後の留意点

従業員のシフト調整

避難情報の確認（津波・洪水等）

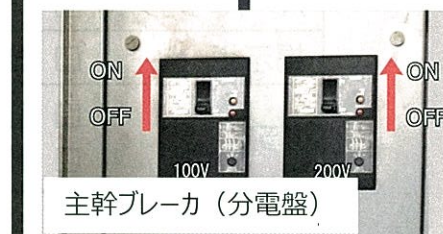
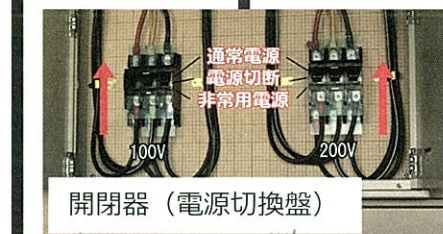
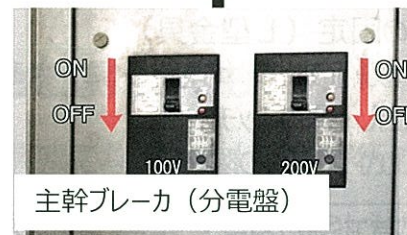
荷受け状況の確認

発電機の燃料補給（長期停電）

資源エネルギー庁、石油組合への報告（第2段階以降）

商用電源への切り換え ※停電復旧後

- ・ 発電機で使用している全ての電子機器類の電源を「OFF」
- ・ 分電盤
個別ブレーカ（100V、200V）を「OFF」
主幹ブレーカ（100V、200V）を「OFF」
- ・ 発電機
ブレーカ（100V、200V）を「OFF」
スロットルスイッチをアイドルリング、スタータースイッチを「OFF」
- ・ 電源切換盤
開閉器（100V、200V）を「非常用」→「通常電源」
- ・ 分電盤
主幹ブレーカ（100V、200V）を「ON」
個別ブレーカ（100V、200V）を「ON」
- ・ 主要機器類の作動確認 ※計量機、POS、油面計、コンソール等



写真提供協力 株式会社タツノ

平時の準備：予防対策〈事務所・備蓄〉

地震（揺れ）を想定したSSにおける予防対策（事務所、備蓄品）の一般的な例

事務所における飛散防止対策の例

場所	内容
出入口	<input type="checkbox"/> 障害物の除去（避難時）
机まわり	<input type="checkbox"/> PCの固定 <input type="checkbox"/> 机同士の固定 <input type="checkbox"/> すべり止め
壁面収納	<input type="checkbox"/> 壁への固定（L型金具） <input type="checkbox"/> 上下収納の緊結（連結金具） <input type="checkbox"/> 引き出し・扉のラッチ <input type="checkbox"/> 落下しやすい物の除去
コピー機	<input type="checkbox"/> 固定有アジャスター <input type="checkbox"/> 壁との接続
パーテーション	<input type="checkbox"/> 「H」または「コ」の字型 <input type="checkbox"/> 床への固定
掲示板	<input type="checkbox"/> 固定（L型金具）
ガラス	<input type="checkbox"/> 飛散防止フィルムの貼付 <input type="checkbox"/> 倒れやすい物の除去
テレビ	<input type="checkbox"/> 台に固定 <input type="checkbox"/> 台を壁に固定
冷蔵庫	<input type="checkbox"/> 壁に固定 <input type="checkbox"/> 避難時に障害がないか <input type="checkbox"/> 落下しやすい物の除去

備蓄品の例

用途	名称
食料品	非常食、飲料水（1人1日2L）
生活用品	簡易トイレ、トイレトーパー、ビニール袋 ポリタンク、ティッシュペーパー、生理用品、寝袋
救護	AED、救急医薬品
情報収集	ヘルメット、懐中電灯（電池） 防災ラジオ（電池）、テレビ、PC、スマートフォン 遠距離通信（携帯電話、PHS、MCA無線など） 近距離通信（インカム、携帯用拡声器など）
応急点検	コーン、バー、ロープ、告知物、結束バンド カメラ、メジャー、ボルト締付工具（スパナ、レンチ） ウォーターフィーリングペースト、検水棒 オイルフィーリングペースト、検知棒
応急措置	油吸着材、砂、マット、専用缶、ペール缶 モルタル・コーキング、不燃テープ

- 備蓄品について、**必要数**は定期的に見直し、確認時に**使用期限**を過ぎていないことを確認する
- 備蓄品のうち、**通信手段**については**日常で使用**するものを原則とし、なるべく**多くの手段**を確保しておく

平時の準備：予防対策＜初動対応計画＞

地震（揺れ・停電）を想定したSSにおける初動対応計画に関する留意点

【身の安全確保】	緊急停止、身の安全確保 安否確認、救出・救護 情報収集 待機・避難 開口部遮断等
【二次災害防止】	分電盤遮断 火気確認（初期消火・通報） 施設の応急点検 発電機の配置、点検、試運転 発電機の接続・始動 電源切換 計量機、在庫等の確認 油出し検査 在庫量把握
【給油再開に向けた対応】	情報収集 給油方針等の検討 情報共有（社内・石油組合・エネ庁等） 給油再開

■ 現場で使える

- ✓ 誰が見ても分かる → **時系列**行動を簡潔に
- ✓ 機能するはずの装置、ヒトが機能しない → **代替戦略、代行者**
- ✓ 代替戦略をとるうえで必要なものがない → **備蓄**

■ 通信途絶を想定しておく

- ✓ どのような事態になったら計画を実行するか → **発動要件**
- ✓ 休業中発災時に機能するはずのヒトが機能しない
→ 初動要員の**参集基準・参集方法**

■ 計画の定期的な周知、更新

- ✓ 初動対応計画を使って**訓練**を実施
- ✓ 計画通りに行かなかった点は**計画を修正**

■ 体制整備

- ✓ 計画を実行するうえで組織的な行動がとれる
よう**連絡体制**や**役割分担**を整理しておく



全国石油商業組合連合会

発行日：2023年5月31日第1刷発行

発行：全国石油商業組合連合会

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-17-14

TEL：03-3593-5834

FAX：03-3593-5830

本書からの無断転載・コピーを禁止します